

英語科学習指導案

日 時 平成29年5月29日（月）2校時
児 童 3年生
授業者
授業場

1 単元名「すしはすきですか」

2 単元の目標

ゲームなどの様々な活動を通して、“Do you like ~?”といった相手の好きなものを尋ねる表現や、“I like ~.”といった自分の好きなものを答える表現を身に付け、自分の好きなものと既習の単語を複数組み合わせることで積極的に友達に表現できる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元では、“Do you like ~?” という相手の好きなものを尋ねる表現と、“I like ~.”という自分の好きなものを答える表現、そして“Tuna.” “Egg.” “Salmon.”などの既習のすしネタや食べ物を表す表現を扱う。

単元の序盤～中盤は、新たな会話表現である好きなものを尋ねたり、答えたりする場面の表現と出会い、それらを身に付けていくための活動を行う。聞く、まねる、言う活動の際には、様々な活動を全体で合わせて行ったり、友達同士で関わり合いながら繰り返し行うことで身に付けていくことができる。

単元の終盤では、お寿司屋さんのお客と店員になり、寿司屋のメニューを基に自分の好きなものを選び注文したり、注文を聞いて渡したりする活動に取り組んでいく。商品を正確にやりとりするためにお客と店員の両方が既習の表現と新出の表現を活用しながら聞き返したり、確認したりして注文をすることとなる。また、メニュー表の内容を変えてやりとりをする際、多数の商品の中から選んで買い物をするため、やりとりの回数が増えたり、表現の幅が広がったりし、実生活のコミュニケーションに近いやりとりをすることができる単元である。

(2) 目指す児童・生徒像

これまで児童は、身近な単語や簡単な表現に慣れ親しみ、各単元において会話表現の中でそれらを用いて伝えるという経験を重ねてきている。2年生時には、「水の中の生き物」という単元において、すしネタになる単語を学習しているが、当時はまだ相手に好きなものを尋ねる会話表現を学習していないため、複数のやりとりを伴って注文をする活動は今回が初めてとなる。これまで各単元で親しんだり身に付けてきたりした単語や表現が点であるとすると、本単元で新出の会話表現と組み合わせることにより、各単元で学んだことが結びついて、線となって繋がると考える。実生活に近いコミュニケーション場面になるように場の設定をし、複数の既習の単語と新出の表現を組み合わせることで場面や状況に応じた表現や伝え方の工夫をすることを通して、今まで身に付けてきたことを自覚し、伝えたいことを積極的に表現しようとする態度を養うことを目指している。

(3) 指導観

上記を踏まえ、本単元では場面や状況に応じて自分の好きなものを伝えたり、相手が伝えたいことを受け取ったりできるようになることを目指し、既習の表現と新出の表現を組み合わせるとわかりやすく伝えることができるという思考を促すようにする。そのためには、単元の序盤～中盤でゲーム等を通して身に付けるべき表現を何度も聞いたり言ったりし、聞く・まねる・話す活動の構成を工夫することによって自信を持って表現を身に付けていくことが前提となる。また、児童の興味・関心を踏まえた伝えたい内容を取り扱うことで、主体的な学びを促すようにする。活動では、「アイコンタクト」「ジェスチャー」「元気よく」などのコミュニケーションを図る際に大切にすることを価値付けし、英語でやりとりすることのよさの実感にも繋げられるようにする。単元終盤では、お客と店員に分かれて好きなものを伝えたり、注文を聞いてカードを渡したりする活動を行う。これらの活動を1枚目と2枚目のメニュー表の内容を変えて2回行うことによって、お客は「好きなもの貰うために正しく情報を言おう」、店員は「お客が好きなものを渡すために注文を最後まで聞いたり、確かめたりしよう」という思考を働かせてやりとりをするようにし、実生活に近いコミュニケーション場面になるようにする。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

本単元で鍛えたり、拡充したりする「見方・考え方」は以下の通りである。

鍛える（2／3時間目）

- ・自分の好きなものを友達はどう思うかインタビューすることで、新出表現の“Do you like ～?”と既習の単語を選択して組み合わせる表現すること。

拡充する（3／3時間目）

- ・お寿司屋さんで注文をする場面で、お客と店員に分かれてやりとりをする状況になっていることから、詳しく伝えたり、確かめたりする必要性に気付くようにすること。
- ・2枚目のメニュー表でやりとりをするために、新出表現の“Do you like ～?”と既習の単語を複数選択して組み合わせる表現すること。

上記の「見方・考え方」を鍛えたり、拡充したりすることができるように、「教師と子供」や「子供と子供」の対話の中で、教師のかかわりによって子供に既習の単語と新出表現との結びつき方に気付かせるようにする。複数の既習の表現と新出の表現を組み合わせ、場面や状況にふさわしい表現になるように考え、実際のコミュニケーション場面に近い場面で表現するという「見方・考え方」を拡充することによって、深い学びへと繋がっていくと考える。

4 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションを 支える技能	言語や文化に関する気 付き
<p>ア “Do you like ～?”といった相手の好きなものを尋ねる表現や, “I like～.”といった自分の好きなものを答える表現を聞いて反応したり, 発音をまねようとしている。</p> <p>イ お客と店員になって注文をしたり, 確かめたりする会話表現を使い, 進んで友達に表現しようとしている。</p>	<p>“I like～.”という自分の好きなものを答える表現と既習の単語を組み合わせ、友達に自分の好きなメニューを表現している。</p>	<p>尋ねる表現の時には, 日本語も英語も語尾を上げて発音することに気付いている。</p>

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学 習 活 動	手 立 て
<p>映像によって、好きなものを尋ねたり、答えたりする表現と出合わせ、新出表現の意味や活用場面を予想しながら単で身に付けていく表現に見通しを持ったり、児童の学習意欲を高めたりする。</p>	<p>1 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の好きなもの尋ねたり、自分の好きなものを答えたりする新出表現と出合い、表現の意味を予想したり、場面を想像したりする。 ゲーム等を通して新たな表現の言い方を理解したり、すしねたの単語を思い出したりする。 <p style="text-align: right;">気</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習の表現を想起し、自分で選択した単語について、相手に好きかどうかを尋ねる活動によって、既習の単語と“Do you like ~?”の表現の組み合わせ方を理解できるようにする。
<p>聞く・まねる・言う活動の順に活動を構成する。それらの活動を友達と関わりながら、何度も繰り返し聞いたり言ったりすることで、新出表現を楽しみながら身に付けていけるようにする。</p>	<p>2 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の単語が含まれている項目（形・色・動物・数・マーク・自由）について、自分が好きだと思うものを選択し、それらを友達はどう思うのかを尋ねる「すきなもののインタビューをしよう」という活動を行う。 <p style="text-align: right;">関ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> 場面と状況を設定することによって、お客と店員の立場から、商品を間違わないようにするために詳しく伝えたり、確かめたりする必要性が生まれるようにする。
<p>活動後のふりかえりにおいて、やりとりができた理由について問うなどし、既習の単語と新出の表現を結びつけて表現することによって、表現の幅が広がることを認識したり、身に付けてきたことを実感したりできるようにする。</p>	<p>3 時間目（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> 『たねやか亭』で すきなものを注文しようという活動において、お客と店員の立場に立って、場面や状況にふさわしい態度や表現を目指す。 伝えたいことを伝えるために、既習の単語と新出の表現を組み合わせ、工夫して表現する。 <p style="text-align: right;">関イ技</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2枚目のメニュー表でやりとりをするために、商品を既習の単語と組み合わせで詳しく伝える必要性に気付かせるようにする。 何度かやりとりを行うことで、進んで既習の単語と組み合わせで活用できるようにする。

6 本時について（3／3時間目）

（1）本時の目標

寿司屋さんのお客と店員となり、“Do you like ~?” “I like ~.” という新出の表現と、既習の表現を組み合わせ、商品を確認しながら進んで伝えることができる。

（2）本時における研究の視点

本時においては、主に**手立て I - ①**について講じていく。2枚目のメニュー表を使ったやりとりが上手くいかないことをきっかけとして、児童と児童、児童と教師の対話によって、既習の表現と新出の表現を組み合わせることによって詳しく伝えられることに気付くようにし、その後の活動で自分の好きなものを注文する際に、既習の表現と新出の表現を組み合わせるよさを感じながら友達に進んで伝えられるようにすることをねらいとしている。

（3）本時の展開

学習活動	主な働きかけ・ 手立て	【評価】 個に応じた指導（▲）
------	--------------------	--------------------

1 身に付けてきた表現を復習する。

- ・言い方を確かめられてよかった。
- ・自信を持って言えるようになったな。
- ・自分だったらいくらを注文したい。

2 本時の課題を確認する。

『たねやか亭』で すきなものを注文しよう！

- ・お客と店員に分かれてやりとりをするんだね。
- ・まちがえないように確認することが大切だね。
- ・やりとりする時には、アイコンタクト、元気よく、笑顔を大切にするといいね。

3 1枚目のメニュー表で活動に取り組む。

- ・自分の好きな物を注文できてうれしい。
- ・何回か繰り返していく内にやりとりに慣れてきた。
- ・1回に2・3個注文したいな。
- ・店員らしく、最後まで丁寧にやりとりできたよ。

4 2枚目（多数の商品や異なる量の商品）のメニュー表を用いた活動を試に行い、好きなものを注文をしたり、正しく渡したりするためのやりとりについて考えたり、やりとりに見直しをもつ。

- ・種類が増えて注文するものを迷う！
- ・この Egg を注文したいけど、他にも Egg があるから、なんて注文したらいいんだろう？
- ・メニューが増えたから、お客さんの言葉をしっかり聞かないと注文がわからなくなっちゃうな。
- ・数が違うもの、皿の色が違うもの、大きさが違うものがあるね。
- ・前に習った色や数と一緒に伝えると、好きなものを注文できそう！
- ・店員さんは確認するために、「もう1回」とお願いして確認するといいいね。

5 2枚目のメニュー表を使って活動に取り組む。

- ・サイズも言わないと伝わらないな。
- ・Tuna じゃなくて、Big tuna って言うといいね。
- ・1回でおぼえられない時は、聞き返すといいね。
- ・メニュー表をよく見ると、今まで習ったことを使って、くわしく伝えることができるね。

6 本時の学習を振り返る。

- ・自分の好きなものが相手に伝わって注文できてうれしいな。
- ・今まで習ったことを組み合わせると、いろいろな注文ができるってわかったよ。
- ・他の食べ物も注文してみたい。

□全員で表現を復習し、言えるようになったことを価値づける。

□寿司屋さんのメニュー表（1枚目）を子供たちと確認していくことによって、注文したい商品への思いを膨らませるようにする。

□活動の進め方を確認し、黒板に提示してあとから見返すことができるようにする。

□間違っって商品を渡す場面を示すことで、商品をわかりやすく店員に伝えたり、お客の言葉を最後まで聞いたり、確認したりしてまちがえないようにしようという思考を引き出すようにする。

□活動の途中で相手を大切にコミュニケーションを図っているペアを見本として発表させ、価値付けする。

□見本を見た後にやりとりの仕方が丁寧になったペアがいたら全体の変容をよさを伝え、気持ちよく活動できるようにする。

〈会話例〉	店員	お客
Hi!		Hi!
		Tuna, please.
OK. Do you like tuna? (カードを見せながら)		Yes, I do. I like tuna.
Good! Here you are.		Thank you. (商品を受け取る)
You're welcome.		

□2枚目のメニュー表でやりとりをさせて、1枚目の時のように上手くいかないことから、メニュー表を比較させ、「どうしてやりとりがスムーズにできなくなったのか」「何が違うのか」などどうことを通して、既習の表現を活用する必要性に思考を焦点化するようにする。

手立てI-①

□児童が考えた使えるような既習の表現を板書し、やりとりに見直しをもたせる。

〈会話例〉	店員	お客
Hi!		Hi!
		A big Tuna, please.
OK. Do you like tuna? (カードを見せながら)		No, I don't.
Sorry. One more time, please.		OK. A big Tuna, please.
OK. Do you like a big tuna? (カードを見せながら)		Yes, I do. I like a big tuna.
Good! Here you are.		Thank you. (商品を受け取る)
You're welcome.		

□わかったこと、できたこと、どうしてできたのか、やってみようことなどを問いながら、言語面・内容面の両方について振り返る。

□1枚目と2枚目のメニューでのやりとりを比較させ、「どちらが楽しかったのか」「なぜ2枚目の方がいいと思うのか」などを問うことで、既習の表現と新出の表現を組み合わせると、実生活に近いコミュニケーションになることを自覚させるようにする。

▲不安のある表現がある児童は全体で確認し、自信を持って言えるようにする。

▲やりとりに不安がある児童は伝えたいことは何か、次に何を言ったらいいのかなどを一緒に考えて活動できるようにする。

【関イ・技～発言・観察ふりかえりシート】

▲既習の表現が思いつかない児童は、注文したいものの特徴を一緒に考えたり、忘れてしまった児童には、言い方を教えてあげたりして、活動できるようにする。